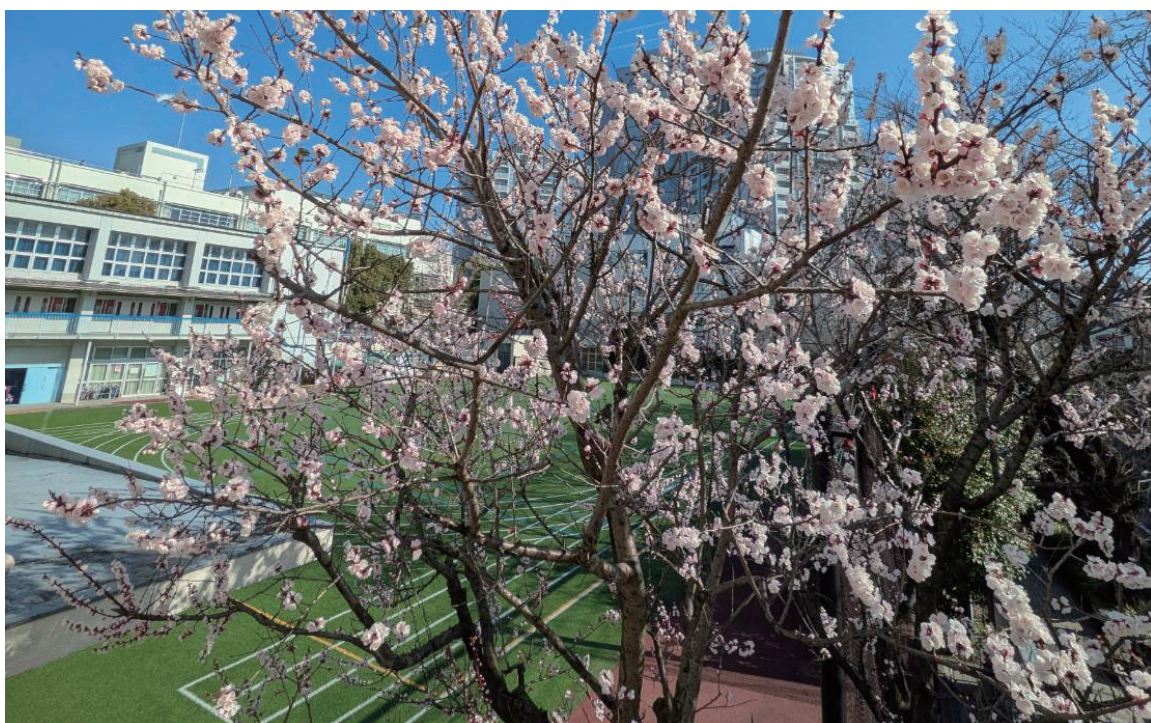


文京人



文京区立鶯籠町小学校

文京人インタビュー

演劇サークル

ブレイメンさんに聴く

涙と笑いの舞台をあなたへ

まずはブレイメンについて
教えてください

橋本勇一 60年ほど前に文京区役所の職員が演劇サークルとして始めました。グリン童話の「ブレイメンの音楽隊」から名付けたようで、仲間たちが協力し合い、困難を乗り越えるというところに共感したのででしょうか。現在、メンバーは10名ほど所属していますが、年1回の公演に出演するのは数名で、メンバー以外に客

演や照明・音響など外部の方々をお願いしています。以前は職場に関するテーマが多かったのですが、最近では、色々な事を題材にした芝居をやっています。

お二人が演劇を始めた
きっかけは

橋本 学生時代に演劇の経験は全くありませんでした。勤め始めてから昼休みに勧誘されて寸劇に出演しました。それで

降ずっと続けており、今は演じるだけでなく演出もやっています。芝居に関する知識や技術は、先輩や他の劇団での出演経験などから少しずつ身につけてきました。

小林真命 私も演劇の経験はありませんでした。15年ほど前にブレイメンの公演をみて面白そうだなと、すぐに参加しました。





この日は2月の公演「ふあみこん」の稽古の様子

脚本も書かれているのですよね

小林 脚本家になりたいわけではなくて、ブレイメンのためにできることをいつも考えています。以前は既存の脚本を使っていたのですが、メンバー全員が出演できる作品をと思って、なかなか合うものが見つからなくて。だったら皆で出られる脚本をつくっちゃえばいいじゃないと軽い気持ちで3年前から自分で書くよ

うになりました。学生時代に小説は書いていたのですが、脚本は初めての経験です。シナリオは基本的に一人で考えます。公演が終わってから次回の脚本を書き始め、次回参加が可能な人数などに合わせて、稽古の始まる期間までに書き上げて、最終的には演出の橋本さんに見てもらいます。

台詞はどうやって覚えるのですか

橋本 私は台本をひたすら読んで覚ええます。台詞を紙に書くことで覚える役者もいます。人それぞれですね。

小林 私は家では台本を開きません。基本的には稽古場で台詞をしゃべりながら覚ええます。自分で書いた台詞なので、ちよつと恥ずかしいこともありますね。

練習時間はどのくらいですか

橋本 今は、令和7年2月10日の公演に

向けて、定時後や土日に区の施設を借りて練習しています。台本が8月末に完成してから週に2〜3回、3時間くらい練習して、公演に臨みます。立稽古に入る前に、発声練習や柔軟体操などもあります。

活動を始めて変わった点がありますか

橋本 交流関係がひろがりました。

小林 「家にいないね」と子どもたちには



徐々に稽古のボルテージが高まっていく

2月の公演「ふぁみこん」の舞台シーン



言われますが、楽しんでる母親をみて喜んでいようです。

印象に残っているエピソードと 演劇の魅力をお願いします

橋本 舞台上ではハプニングが起こることもありますが、それを即興で乗り越える緊張感や瞬間の妙が演劇特有の魅力です。例えば私は本番中に転んで出血してしまいました、痛みを隠して最後まで舞台を務めたことがあります。また、本番前日に出演予定者が倒れてしまい、急遽、本番当日にプレ公演という形で公演を行ったこともあります。演劇は一人で成り立つものではなく、脚本家、演出家、演者、照明、音響、美術など、多くの人々の協力が必要です。この過程で強い絆や信頼関係が生まれるのも魅力のひとつです。

小林 芝居が終わった後のカーテンコールで舞台から客席を見たら、感激して泣いている人がいて、こちらも泣きそうに

2月の公演「ふぁみこん」の舞台シーン



演劇は地域に根差した活動とも
相性が良く、文化交流や
地域活性化の場としても
役立ちますよね

都立工芸高校の生徒
さんにご協力いただ
いたチラシなど

橋本 年に1回文京シビックホールで無料公演をしていますので、ぜひ観に来てください。興味を持った人は一緒にやりましょう。観るだけでなく演じたり、スタッフとして関わることで、演劇の深い魅力を体験してみてください。文京区役所に勤めていない人でも参加できます。

6-3 シアター第5回公演 演劇サークル『ブレーメン』

文京シビック小ホール（シビックセンター 2F）
2025年2月10日（月）開演 15:30 / 19:00
1日限り2回公演 入場無料（申し込み不要）各回とも開場は30分前

[illegible]



Bar うなばら 湯島

マイスター
バーテンダー

中野 文博さん

老舗バーが紡ぐ カクテルと人生の物語

ここは湯島にある1973年創業の老舗バーです。花街として栄えた地域に開店当初は置屋ばかりだったそうです。

オーナーの中野氏（80歳）は「大学時代に色々アルバイトをして、サラリーマンは性に合わないなと悟りました」と言ってニヤリとしました。

卒業後すぐ貯金をドルに換えアメリカ行きの船に単身乗込み、2週間後に到着したサンフランシスコでは、スクールボーイ（住込みの家事手伝い）をしながら語学学校やカクテル学校に通いました。



就職したサンフランシスコの店では、カクテルを作るのがブレンダーマシンで物足りなく、シェーカーが振りたくて半年後には本場ニューヨークを目指したそうです。

グレートハウンドバスのパスを買い、3日半かけて大陸を横断し、到着したニューヨークのサイトーレストランに採用されたものの、「4名のバーテンダーの中で一番働いているのに給料が安い」とマネージャーに言うと思えさつそく質上げしてくれました。「アメリカって、こう

いう国だあ」と思ったそうです。ミヤコレストランでも兼業し、日本のサラリーマンの4倍位の収入がありました。そうして貯めた資金で、半年後にカナダのナイアガラ見物、1年後にはルクセンブルグ行き飛行機に乗りこみました。アメリカはビザのため6か月ごとに出国する必要があったのです。

ヨーロッパでは、ユーレイルパスという鉄道90日間乗り放題の切符を買い、寝台車に乗ってホテル代を浮かしながら各国をぐるっと巡り、ニューヨークに戻りました。

それから半年後の出国では、北欧を通ってソ連に入り、シベリア鉄道で東に向かいナホトカ港から船に乗って、2年ぶりに日本に帰ってきました。すごい世

三楽オーシャンのグロリア
オーシャンシップボトル
を見せていただいた



シェーカーの前に置かれたマスター手書き
のおすすめカクテルのメニュー



界一周ですね。

学生時代に知り合いアメリカ修行中
待っていてくれた女性と帰国後すぐ結婚
し、やがて今の店に落ち着いたそうです。
ちなみに中野氏よりお酒が強いとか。

このお店は、カウンター7席・テーブ
ル10席とコンパクトで雰囲気も良く、一
人飲みにも、友人との語らいにもよいで
すね。

シングルモルトのウイスキーをはじ
め、幅広いドリンクが揃っており、一つ
ひとつが丁寧に作られ、バー初心者から
愛好家まで満足できる内容です。中野氏

湯島天神の境内に咲く梅をイメージして創作された中野
さんオリジナルカクテルの「紅梅(左)」と「白梅(右)」



が考案した『白梅』は焼酎とすだちを使っ
た和風マルガリータで、爽やかな味わい
が評価され日本バーテンダー協会のコン
テストで1位を受賞しました。同3位の
『紅梅』は仙台銘菓の九重を使用してお
り、こちらも人気です。

つまみは中野氏の手作り、キリッとし
た醤油味の煮込みが名物です。胡椒を効
かせたレンコンのきんぴらをサッと
作って出してくれたりと、スナックのよ

うな居心地のよさもあります。

一般にバーは敷居が高いイメージがあ
りますが「少しでも多くの人にカクテル
の魅力を知ってもらいたいので、うちで
は800円均一です。上野公園の桜フェ
スタでは屋台Barとして500円均一
で楽しんでもらっています」そう、祭が
大好きで、土日には店を閉めてあちこち
の祭で神輿を担ぐそうです。

カクテルの魅力について尋ねると「一
つの味ではなく色々ミックスされて、人
生みたいに面白いです」と笑顔で答えて
くれました。



Bar うなばら

〒113-0034

文京区湯島3丁目38-3

まっぴる2F 定休日：毎週日曜日

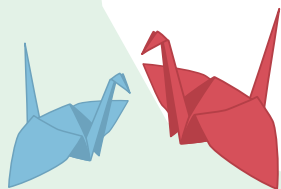
☎ 03-3831-6677



昔あそびでみんながつながるイベント



“クレエ・デ・リアン”に



行ってきました!



2025年1月25日(土)、文京総合福祉センター1階で「クレエ・デ・リアン」という無料イベントが開催されると聞き、取材にお邪魔しました。

会場に到着して最初に目についたのが、大鍋でホカホカと湯気を立てている豚汁と、香ばしい醤油の香りを漂わせている手焼きせんべい。まずは腹ごしらえをしてから、会場の様子を見学します。

駐

車場スペースには、輪投げ、ボッチャ、けん玉で遊べるコーナーが。

輪投げコーナーは、小さな子どもは少し近い場所から投げてOKのおまけルールがあり、車椅子で来場した人も楽しそうにプレーしていました。ボッチャは、重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目にもなっています。白いボールを1つ投げた後、カラーボールを3つ、白いボールのできるだけ近くに投げるという簡易ルールで行われていましたが、実際にやってみると意外と難しかったです。

も

つと苦戦したのは、けん玉。障がい者のボランティアスタッフさんがお手本プレイを見せてくれましたが、けん玉にさわるのは数十年ぶりなので、



とん汁
召し上がれ~





教えてもらいながら切り絵

よ〜く
ねらって!



おてだまは
歌に合わせて

まったく勘がつかめません。大皿の上に玉を乗せる簡単な技を何とかクリアして、屋内の会場に移動しました。

屋

内会場には、お手玉、あやとり、切り絵、カプラが楽しめるコーナー

が。切り絵コーナーでは、友禅和紙を使って、干支にちなんだ巳のデザインのカードを作ります。ここでも、障がい者のボランティアスタッフさんが子どもたちに作品づくりの指導をしてくれていました。

カ

プラは、木の板でできた積み木。神殿のような大作に挑戦していた

男の子は、あと一步のところで崩れてしまい、スマホで撮影していたお母さんともども「あぁー!!」とガッカリ。でも、めげずに再トライしていました。

お

手玉、あやとりコーナーも、なかなかの人気です。子どもたちはも

ちろん、一緒に来場した親御さんたちが久しぶりにさわるお手玉やあやとり紐に「あれ? どうやるんだっけ?」と戸惑いつつもやり方を思い出し、親子で一緒に楽しんでいる様子が印象的でした。

フードエリアで
いただきます〜す



香ばしい醤油の香り! 焼きたてせんべい

屋

内会場の入り口には、『文京人』第五号で紹介した「NPO 法人地縁の輪」の養蜂グループがブースを出していました。2024年5月と6月、8月に採取されたハチミツと、みつろうで作った松ぼっくり形のキャンドルを販売。



大人には懐かしい駄菓子がいっぱい



お楽しみ券当たるかな〜ワクワクガチャ回し!

ハチミツを試食させていただいたところ、採取時期によって色や香り、味が微妙に違い、自然の恵みの面白さと奥深さを実感できました。

昔遊びを楽しんだ後は
駄菓子屋でお買い物体験♪



今

回のイベントは、来場者に遊びを体験してもらうだけでなく、もう1つ仕掛けがあります。

それは、スタンプリリー。各ブースで遊びに参加するとカードにスタンプを1つ押してもらえ、スタンプを4つ集めてガチャガチャコーナーでガチャを回すと、中には「お楽しみ金券」が入っています。

そ

の金券を持って近くの「PLACE SUIDO-2」に設けられた駄菓子屋に行くと、金券の金額分の駄菓子を購入できるのです。

イ

ベント終盤になると、ガチャガチャコーナーには遊び終えた子ども

もたちで人だかりができていました。取材班も、子どもたちの後について駄菓子屋を覗いてみると、中は大混雑。みんな真剣な表情で、思い思いに駄菓子を選んでいます。

2

歳の弟と一緒に駄菓子屋から出てきたレオ君（6歳）に話を聞くと、「今日はいろんな遊びができて、お菓子もたくさん買えて、楽しかった!」と、大満足の様子。お店の外で待っていたご両親も「寒いので豚汁の温かさが身に沁みました。駄菓子屋さんの雰囲気も懐かしいですね」と、笑顔で答えてくれました。

令

和キッズにも、平成・昭和世代の大人にとっても思い出に残るひと時になったようです。



けん玉名人の
スタッフ

終了後、今回のイベントを主催したりアン文京の野村美奈施設長にお話を伺いました。

——「クレエ・デ・リアン」とは、どんな意味ですか？

「リアン」はフランス語で「絆、つながり」を意味し、「クレエ・デ・リアン」は「つながり（絆）を創る」という意味。サン・テグジュペリの小説『星の王子さま』の一節にもある言葉です。

文京総合福祉センターは、地域の高齢者、障がい者、子育て支援のサービスを行的っており、入所・通所、就労、余暇活動などさまざまな形で、児童から高齢者まで幅広い世代の障がい者の方々が利用されています。そんな中、私たちスタッフや利用者の皆さんとの間で「施設の外に出て、地域の人々と一緒に楽しい活動をして、街のいろいろな人たちとつながりをもめたい」という機運が高まっていったのです。

そうして2018年から始めたのが、「クレエ・デ・リアン」という音楽イベントです。楽器演奏や歌、ダンスが得意な障がい者メンバーが企業や高齢者施設を訪問し、参加者と一緒にライブを作り上げるイベントで、好評をいただいていた。ところが、コロナ禍以降、外に出ていく活動は中断せざるを得なくなっていました。

——今回が、約5年ぶりの再開となったわけですね。

はい。今回は「あそび」で人々がつながることをテーマにイベントを開催しました。大人には懐かしい、子どもには新鮮な昔あそびを軸に、みんながつながれるといいなと考えたのです。けん玉や切り絵ブースでは障がい者の方がインストラクターを務め、駄菓子屋では障がい当事者ボランティアグループ「Beerin」（ビーリン）のメンバーが接客をしています。豚汁は、普段リアン文京で給食を手がける栄養士さんが

腕を振るってくれました。

——イベントを終えての感想は、いかがですか？

当初の予想を超える300名以上の来場者があり、とても嬉しく思っています。障がい者にとっては、来場者のお世話をし、街のいろいろな人と交流できること自体が大きな喜びです。地域の子どもたちにとっても、障がいのある人と接することは一つの社会経験となるでしょう。イベント内容は変わるかもしれませんが、今後も「クレエ・デ・リアン」の名前で、街のいろいろな人たちが「楽しいこと」で出会う交流するイベントを企画していきたいと考えていますので、ぜひ遊びにきてください。



イベント告知チラシ

表紙の写真

文京区千石にある駕籠町^{かごまち}小学校は大正11年東京市駕籠町尋常小学校として創立され、空襲などを経て、昭和33年に駕籠町^{かごまち}小学校として新たに開校されました。

「駕籠町」という地名の由来は江戸幕府まで遡^{さかのぼ}り將軍専用の駕籠を担ぐ人にこの地を与え居住させたとされています。

六義園も近く歴史あるエリアです。



小学校は駒込警察署、シヨツピングセンター、東洋文庫ミュージアムなどの施設がある大通りから少し小道に入った場所にあります。
桜の季節は正門近くを歩くのが楽しみです。

写真提供 (敬称略)

かごまち
駕籠町小学校 (表紙)

演劇サークルブレイメン (本文)

Café Tweedia

〒112-0013 文京区音羽 1-2-18 1階
TEL:090-7555-0866



地域のだれもが気軽に立ち寄れる場所です。
コーヒーやジュースなど400円程度
インスタ始めました！



広告募集

文京人に
広告を掲載しませんか

詳細は編集部までメールで
お問い合わせください。

文京区の人と地域をつなぐ情報誌

文京人 (ぶんきょうじん) 第八号

題字：上村正子

企画編集『文京人』編集部

発行：NPO 法人 地縁の輪^{ちえんのわ}

発行日：2025 年 5 月 31 日



お問い合わせ先：

社会福祉法人武蔵野会

文京福祉センター江戸川橋

電話：03-5940-2901

edogawabashi@team-lien.com



無断転載禁止

職員募集

リアン文京は多世代の方に
ご利用いただく福祉の
都市型複合施設です。
ご利用者と笑顔になれる職場で
一緒に働いてみませんか？
ぜひお問合せください。



リアン文京は、
NPO 法人地縁の輪と一緒に
文京の地域に貢献していきます。

社会福祉法人武蔵野会 リアン文京

〒112-0006 文京区小日向 2-16-15 ☎ 03-5940-2822 📠 03-5940-2823
担当：野村・渡部 <https://team-lien.com>